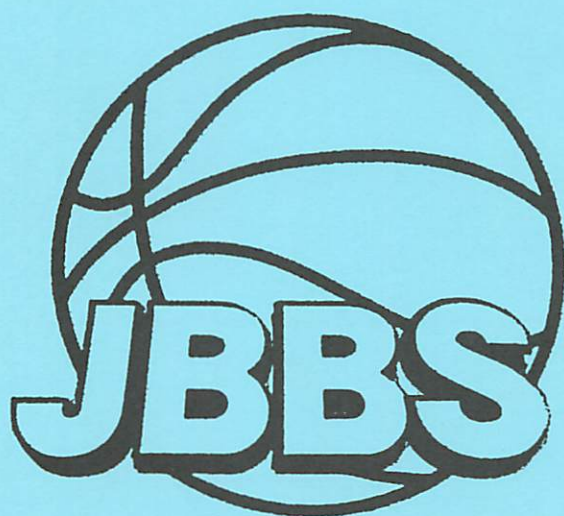


バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No:16



2001年12月

日本バスケットボール振興会

ハ詩 (はちうた)

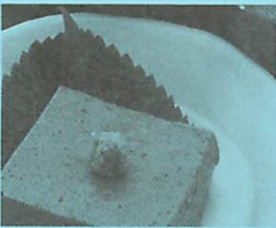
BISTRO 八詩

渋谷の喧騒を忘れそうな和める空間で、旬の素材を。

ごまや

BISTRO ごまや

渋谷の真ん中と思えない、まるで大人の隠れ家。



おすすめメニュー

ごまや特製 手造り胡麻豆腐
大正海老のふくら揚げ
クラッシュナッツとオレンジソース
チャイニーズチキンサラダ
ニューヨークスタイル
胡麻の葉御飯

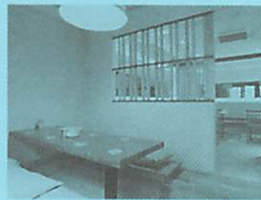


東京都渋谷区道玄坂2-25-13
松原ビルB1F
tel:03-3770-8158
Open 17:00 ~ Last Order 23:00
*年中無休<85席>

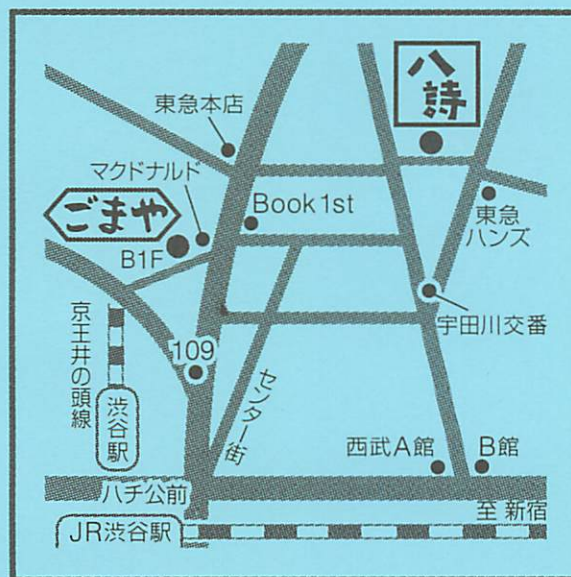


おすすめメニュー

肉豆腐 ネギどっさり
鮮! 生野菜盛り味噌で
有機印 キャベツどっさり炒め
緑豆でざる豆腐
お刺身いろいろてんこもりサラダ



東京都渋谷区宇田川町38-3
tel:03-3496-8009
Open 17:00 ~ Last Order 23:00
*年中無休<70席(2F50席・貸切OK)>



【オフィス】JACKPOT PLANNING ジャックポットプランニング
〒155-0032 東京都世田谷区代沢5-35-8 岩瀬ビル1F
TEL 03-3413-9555 / FAX 03-3412-7332

目 次

○ 平成13年度秋季理事会報告概要	1
○ 健康に関する講演会報告要旨	広報部会 6
○ 懇親パーティー開催	9
○ 特集・ミニバスケットボール	普及部会 10
○ 家庭婦人バスケットボール連盟のこれから	山田 洋子 23
○ とっておきのバスケットボール	上谷 富彦 25
○ 観戦記	
第19回女子アジア選手権大会	水谷 豊 27
JBLスーパーリーグ	奥田 薫 29
関東大学バスケットボールリーグ戦	野口 昌三 30
○ 風神雷神	
発想の転換	丸山 正敏 31
○ わが軌跡	
私のバスケットボールの歴史	紺野 仁 33
私のバスケットボール人生	福田 利廣 35
○ 会員だより	
クリスマス慈善バスケットボール祭	松橋 昭夫 37
バスケはかけ橋	米田由美子 38
○ 常任理事会報告	39
○ 日本協会平成14年度日程	40
○ 全国高校選抜選手権大会組み合わせ	41
○ 訃報・事務局だより	43
○ パソコンに関するアンケート結果	44

ミニバスケットボール

担当：普及部会

—— 将来にかける夢 ——

はじめに

ミニバスケットボールは、学校の先生を始め、指導者、保護者、地域の行政関係者（教育委員会）など、多くの人々のかかわりの中で、その健全な普及発展が図られてきており、プレイヤーを中心に関係者全員が参加して、バスケットボールの今を楽しみながら将来の夢をみて活動している。

現在ミニバスケットボールは、小学生（12歳以下）を対象として、全国的に活発な展開をみせているが、全体的な統括組織としては「日本ミニバスケットボール連盟」があって、都道府県協会を基盤とした全国組織を有し、かつ“日本バスケットボール協会の加盟団体”となっている。日本のバスケットボール普及発展のため、同連盟は極めて大切な役割を担う組織として位置付けられよう。

今回振興会としては同連盟の現状をご紹介したが、現場で直接指導にあたられている方たちの生の声をもお伺いし、それらを整理して以下のとおり皆様にご報告させていただくことを企画した。改めて今後のミニバスケットボールの在り方等につき共に考え工夫しながら、応援を続けたいと思う。

◇「日本ミニバスケットボール連盟」について

1. 組織、目的、事業

・組織

都道府県協会加盟のミニバスケットボールチームにより組織され、日本バスケットボール協会の加盟団体となっている。

ミニバスケットボールは、12歳以下の児童をもって男女別々に組織する。

・目的

ミニバスケットボールの健全な普及発展を図るとともに、技術の向上と、指導者の資質向上を図る。

・事業

交歓大会、競技会（全国大会、都道府県大会、ブロック大会）の開催。

事業の推進、大会の運営のためにミニバスケットボール連盟としては次の委員会を中心に活動している。

総務・財務／競技／審判／技術／規則／普及・広報／国際／の各委員会。

更に、ミニ連盟が抱えている色々な問題を解決していくために次の10の調査研究部会を設け、年度毎に計画を立案し推進している。

学校／登録（単一チーム）／ゴム・革ボール／技術（講習会）／審判（講習会）／ブロック組織／指導者資格／医科学／スポーツ少年団／シューズ／の各調査研究部会

2. 参加チームの形態

大会に出場しているチームの実態を調査してみると、全国大会、都道府県大会、ブロック大会等にみられる殆どのチームが、或る小学校を中心に近隣数校の生徒を集めた「クラブ形式」のチームであり、「単独チーム」での活動はかなり少ない現状である。

3. 指導育成についての考え方

クラブ形式で活動している場合も学校の理解ある支援が必要で、学校の先生が中心となって指導できる形が望ましいが、チームによっては外部コーチとの連携により指導しており、この場合も学校側の理解は不可欠となる。指導に当たっては、小学生の立場に立って指導することが大切で、大人の見方で指導すると無理が生じてくる。小学生にバスケットの面白さを教えて将来ともバスケットを続けていきたいと思うようにさせていく必要がある。しかし、試合に勝つことに重点をおいて指導しすぎると、かえって色々な意味で子供に負担がかかり、将来性のある選手でもバスケットをやめていくケースが見られるので、まずはバスケットに十分馴染ませながら、興味を持って楽しくプレイできるように指導することが基本となる。

練習の指導対象も小学2年生から6年生と幅が広く、指導者の数もそれなりに必要であるし、また低学年から高学年まで同じ練習内容で指導することには問題があるので、低学年層には低学年用のカリキュラムを作り父母の協力を得て指導をしている現状である。

なお、「ミニバスケットボール連盟」では、全国大会へ出場しているチームに対して次のような内容によるアンケート調査を行っている。

- ・練習量 …………… 1日の練習時間、1週間の日数
- ・試合数 …………… 公式戦、招待大会、交歓大会、練習試合、県外の試合数等
- ・練習内容 …………… 基礎練習の練習時間、重点的練習項目等
- ・試合形式の練習… 5対5、3対3等の練習時間

これらの項目について数年にわたりデータ分析を行い実態を把握している。

4. ミニバスケットボール大会について ―全国大会の推移―

- ・第1回全国大会は昭和45年に京都府で開催。
第1回～第15回（昭和45年～昭和59年）大会までは交歓大会として開催。
第16回～第23回（昭和60年～平成4年）大会までは優勝大会として開催。（優勝チームを決定するいわゆる選手権形式の大会）
第24回以降（平成5年～平成12年）はブロック別による大会として開催し、ブロック別に優勝チームを決定。
- ・大会の趣旨としてはできるだけ多くの選手を出場させることを目指しており、あまり勝敗にこだわらないように配慮している。
- ・全国大会の出場条件としてチーム編成は4校以内としている。
- ・各都道府県大会（選手権大会、全国大会の予選、交歓大会）、ブロック大会は、全国各地で～杯と名づけて近隣のチームも含めて開催している。



◇ミニバスケットボール連盟理事長 桑原 茂氏 に伺う

普及部会としては、去る7月12日午後、ミニバスケットボール連盟理事長の桑原 茂氏を振興会事務所にお招きし、同連盟の現状その他につき色々お話を伺うことができました。積極的なご協力に対し改めて厚くお礼申し上げます。

当方出席者 大塚 稲垣 都崎 横山 渡辺 / 川本



——— まず連盟の最近の現状についてお聞かせ下さい。

「ミニ連盟の内容を多くの人に知ってもらうのも私の役割のひとつであると考えますので、連盟で作成した“平成12年度委員会活動報告・平成13年度委員会活動計画”の資料を基に説明しましょう。ミニ連盟は基本的に7つの委員会を中心とし、その他に中長期的展望に立った環境作りという観点から、10の調査研究部会を編成し、全国的な連携を目指して活動中です。最近では普及広報の分野で“ミニバスケットネット”というホームページをもっておりまして、年間10万件以上のアクセスがありますが、内容はミニバスケットボールの情報発信と情報交換です。その他に授業で開いてもらえるようなホームページを目標にしています。また、対外的には3年前にFIBAのミニバスケット交流CIM(ミニの委員会)にも参加しています。」

——— 調査研究部会ではどのような活動を行っておられますか？

「調査研究部会では、一口で言えばこれからのミニバスケットの在り方を研究しています。日本でも、形の上ではスポーツ少年団、クラブ、学校単位など様々ですが、私共としましては、やっていることは皆同じでありすべて仲間であると考えています。外国ではフィリッピンに見られるように、学校の延長ではなく、お金がないとできない“クラブ組織”になっているところもあります。」

また、スポーツ指導者、指導者資格の確認把握を行っていますが、ミニ連盟にはスポーツ指導者の資格を持つ指導者が多く、ミニの指導者は公的資格を持っていた方が中学の指導者となる場合も受け入れられやすいのです。」

——— 今後の課題、問題点としてはどのようなことがありますか？

「今後一つには、ハコの問題が大きいと思われます。というのは現実に体育館の取り扱い、つまり場所の取り扱いになっているということで、スポーツ少年団も学校の体育館を使用している状況です。もう一つには、ミニの試合はルールが異なりますので、適正に吹いていただくためには、一般公認審判の資格をお持ちの方にもミニの審判を理解してもらう必要があるということです。また、大きな課題として学校体育からバスケットボールがなくなるのではないかと心配もありましたが、現在は小康状態といったところです。ミニ連盟の活動は社会活動であるとはいえ、学校体育の一環でもあると考え、調査研究部会では授業で行うようなミニバスケットの内容を研究しています。お金の無い組織ですので組織力を活かすしかありませんが、部会の活動メンバーの延べ人数は相当になります。」

——— ミニバスケットボールの活動上の原点、あるいは目的については、どのようにお考えですか？

「ミニバスケットボールは、楽しいからやりたいというところが出発点ですから、やはり“シュートして、ゴールして”が原点となりましょう。」

1・2年生はマイクロミニバスケットボール、3・4年生以下の試合はフレッシュバスケットボール大会、5・6年生以下の試合はミニバスケットボール大会、という考え方に立っています。個人登録、チーム構成については、スポーツをする機会を広く与えることを重視し、選抜的なチームづくりは考えていません。また、当然ながら保護者、地域、行政な

ど色々な組織体のバックアップが必要となります。

練習のやり過ぎで障害を起こすこともあります。そのために指導者には怪我や運動障害について勉強していただいていますので、例えば水分の補給などについても十分注意されています。また、ミニ連盟に登録しないで活動しておられるチームも多数ありますし、成熟しているチーム、成熟していないチーム、強い弱いなど様々なパターンが見受けられますが、とにかく全てのチームがミニ連盟に登録して下さることを期待しています。

価値観は多様化しており、勝つことも大切ですが、一方で、できなかったことができるようになったときの達成感、あるいはまた多くの友達を作るということも活動の大きな目的です。勿論勝敗、勝ち負けを否定するものではありません。」

——— これからの普及、指導、登録などの面については？

「アシックスのミニバスケットボール教室は、専門のスタッフがいて良くやっていただいております。また、お金のかかる全国大会などは外部から暖かい支援を頂戴しています。登録している競技者は、男女合わせて15万人以上と思われますし、チーム数は約8,600位ではないでしょうか。未登録の競技者を合わせると更に多くのチームと競技者がいることになると思います。登録されない理由は色々考えられますが、指導者の考え方にもよりましよう。私共は夢を持ってしっかり自分たちの組織を運営していくことが大切と考えています。」

——— 今後のミニバスケットの展望、指導者像についてお聞かせ下さい。

「大変環境が変わってきていますので、企業、学校の延長線上でやってきたスポーツ（バスケットボール）も5～10年先を見ないと手遅れになるでしょう。学校と企業で育った文化（スポーツの環境）が崩れ変化している中で、受け皿は何かを議論していかななくてはいけないと思います。指導者は約8,000チームの倍、16,000人位おられるかと思われますが、問題は指導者の資質ということになります。指導の内容によりその人その人の役割があって、実技の指導、子供と遊ぶタイプ（年齢的に近い人）、そして対外的交渉を行う人など、3つのタイプに分けられるでしょうか。これからはますます指導者の育成が大事な事業となります。」

——— 有難うございました。

〔付記〕

色々な角度からの理事長のお話を通じて、私共は、連盟の基本姿勢と思われる部分で、特に次のような諸点を強く印象づけられましたので、以下補足の意味であえて付記させていただきます。（普及部会）

- ・ミニバスケットボール連盟（昭和51年創設）は、良く整備された組織編成のもと、全国的な仲間意識に基づく“大きな輪”の形成を目標に、指導し活動することを基本理念としている。
- ・現在は、最近の時流や環境の変化の中、今後のミニバスケットの活動基盤を、学校単位というより社会体育として位置付けながら、弾力的に対応していかなければならないという認識にたっている。
- ・バスケットボール界にあっては、“子供を中心とする特殊分野”であるが、指導者が独自の発想、視点、目線を持って社会体育としての在り方を模索していく活動が、ミニの新しい方向を見出すことにつながるし、また、バスケット界の普及分野においてその存在価値を示していくことになろうとの見識を抱く。
- ・指導現場にあっては、子供たちに対し、必要以上に勝敗そのものにこだわり強調しすぎ

ることなく、むしろ勝敗以外の部分——仲間意識、友情、達成感、正しい基礎技術などを大切に考える方向を重視する。

- ・「子供たちのために」を大前提として、色々な方面に門戸を拡大するとともに情報を発信していきたい意向である。

＊新規ミニバスチームの登録について

各都道府県ミニバスケットボール連盟に登録されますと、同各連盟が日本ミニバスケットボール連盟に登録します。具体的な方法としては、近隣の登録済みチーム、都道府県体育協会、市町村体育行政機関へご照会下さい。

日本ミニバスケットボール連盟ホームページ (<http://www.minibas.or.jp>)

◇ミニバスケットボール・現場指導者懇談会

普及部会では、現在ミニバスケットボールの指導に当たっておられる方々から、“現場の生の声”を直接お伺いさせていただくことを目的とした懇談会の開催を企画し、10月上旬に実施しました。以下その内容のあらましを掲げますが、諸般の事情から今回は東京近辺の4チームの指導者の方々にご協力をお願いさせていただきましたのでご了承下さい。今後もこうした交流、勉強の機会を更に拡大できればと思っております。ご多用中快くご出席賜りました指導者の皆様方に対し、あらためて厚くお礼申し上げます。

現場指導者懇談会

日 時	2001. 10. 5 (金)	11:00～13:30
場 所	振興会事務所	
出席者	宋戸 進 氏	八千代台スターキッズ (スポーツ少年団) 指導
	原 海之進氏	マジックス (鎌ヶ谷市立北部小学校) 指導
	渡辺 恵子氏	ときわスポーツ少年団ミニバスケットボール部指導
	渡辺 誠 氏	鎌ヶ谷市立道野辺小学校、南部小学校合同チーム指導
	(普及部会側)	大塚 稲垣 手嶋 横山 司会：都崎



司 会 まず最初に自己紹介かたがた現在指導されているチームの概況などをお話し下さい。

宍戸氏 登録している男子は50名位、女子が40名位、計90名程の多人数で、小学4年、5年、6年を対象としています。組織づくりの面では、基本的に母集団（お母さん達の集団）が中心となっており、対外試合や登録の件などすべてお母さん達が協力しあって会の運営に努力しています。実績としては女子のスポーツ少年団県大会ベスト16が過去最高です。



最近では市内や近隣の市町村と対外交流試合をするようにしていますが、スポーツ少年団の大会、ミニバスケットの大会には必ず参加しています。市内の大会でも少子化の影響からチームによっては5人が揃わないところもあり、その場合には男女混成チームで参加させています。

競技時間は、4年生位までは体力、気力面を配慮して、例えば5分ゲームを2セットやって終わらせるという形で子供の発育に応じた試合をやらせています。

練習時間は毎週日曜日9時から12時まで、練習場所は小学校開放により小学校の体育館でやっていますが、まず休む生徒はいません。

学校との関係ですが、今までは学校体育を主体に考え、我々は社会体育の一環としてミニバスケットをお世話させていただくという形でやってきています。ですから学校行事の中で学校が大会に参加する場合はそちらを優先させ、当方はあくまでも学校をフォローする立場という認識に立っています。

しかし、2002年4月以降週休2日制になりますから、今後子供達にどのように対応していくことが良いのかについて、市の方でも体協に専門委員会を設けて月に1回会合を持ち検討しています。

渡辺(恵)氏 スポーツ少年団を指導しています。こちらは並行団で他にサッカーは男子だけ、ソフトは男女でやっています。市全体では女子が32チームあり男子は10数チームです。ミニバスは男子が20名、女子が25名で、男子は3校、女子は2校の小学校から成り立っています。



少子化のため人数が少ないので、現実には1年生から希望があれば受け入れています。

所属団体としては市の指導者協議会が一番身近な団体で、その上は県に登録しています。私は指導を始めて10年目ですが、その少し前に関東大会に出場した実績があるほか、県の地区大会には何度か出場しています。

練習は基本的に土、日と水曜日で、土曜日は2時から6時位まで、日曜日は午前9時から12時まで、水曜日は5時15分から6時30分までで、水曜日に参加するのは4年生以上、土、日は全学年です。練習場所について校庭開放委員会という会があって各団体がどのようにに使わせていただくか月に1～2回会議をしています。

地域のスポーツ少年団というかたちですので、例えば学校行事があるとそちらに優先的に参加させていますし、出席状況は特に低学年の方があまり良くありません。練習は高学年と低学年と分けており指導者も別々ですが、高学年になると上手になりたいという気持ちから大勢参加してきます。

試合は、市の大会が春秋冬と3回あり、県の大会が冬に1回あります。大きな大会は全部で4回あり、その他に、上手な子供以外の試合ということで4年生以下のフレッシュ大会が1回、グリーン大会という高学年でもいつも試合に出られない子供のための試合が1回あります。

経費は、団への納入金が月額1,000円、部費が月額1,500円で、その中に登録費や保険料、用具費なども含まれます。金銭的なこととか身の回りのことはお母さん達に手伝っていただいています。

原 氏 男女別は年により異なりますが、今年は男子が1名しかいなくて女子が20名です。基本は一つの学校ですが、学校自体が1学年50人位の学校なので、他の小学校でもやりたい子供がいれば受け入れています。市の中には小学校が9校あり、所属している市ミニバスケットボール連盟では四つのチームが活動しています。9～10年の歴史はありますが、際立った実績はありませんし、県大会にも行けないくらいです。



練習日は日曜日の9時から12時まで、練習場所は学校開放によって小学校を借りています。参加は15～16名ですが、これも学年や年によって熱心さが違います。

市のミニバス連盟では4チームが5～6年の対抗戦を年に4回実施し、低学年も年2回試合を行なっています。学校との関係は基本的に問題ありません。

子供達からは月500円の会費を徴収して、登録費、参加費、ユニフォーム代などに使っています。

渡辺(誠)氏 二つの小学校の合同チームを指導しています。全員で25名ですが、5年男子が7名、残り18名が女子です。学校のクラブに入っている女子で6年の2学期から入部してくる子供もいます。鎌ヶ谷市のミニバス連盟に所属していますが、大会としては市の4校の対抗戦のみです。



練習日は日曜日の9時から12時まで、練習場所は小学校の体育館を借用させてもらっています。参加者は雨の日でも風の日でも良く休まずに出てきます。学校との交流は別段ありませんが、教頭先生と打ち合わせをし学校行事と調整しながら体育館をお借りしています。

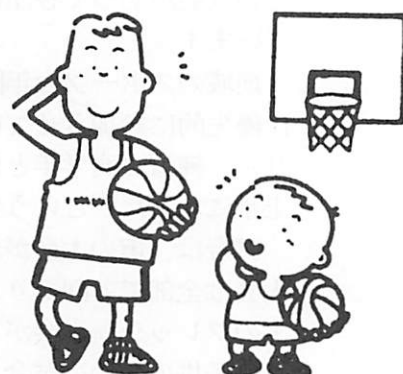
子供達から徴収しているのは月に500円で、支出は保険料や連盟費以外あまりなく、大会時のコーチのお弁当代くらいです。ボールは学校のボールを使わせてもらっています。

宍戸氏 市全体をみると子供達が派手になってきているので、なるべくお金を使わないよう親に言っています。母集団には基本的に1人月額500円でやっていくように指導していますが、ユニフォーム代、対外試合交通費、移動用の車代などでどうしても足りませんので、どうしたらよいか市長に相談したところ、産業祭のバザーの会場を優先的にお借りすることができ、皆が商品を提供した結果、収益が約14～15万円になり、有効な補助費として活用されています。

普及部会 ミニは日本で初めて行なわれた社会体育であろうかと考えられていますが、今後はやはり地域社会に根付いたミニの活動が、更に大切になってくるでしょう。

チームづくりの問題など今後どうなっていくのでしょうか。また日曜日(練習日)以外の日に子供達はどのようにするのでしょうか。授業でバスケットをやっている学校側としては逆にミニにどのように関わっているのかとも思います。

練習時間、学区制の問題、チーム構成面等か



ら新しい方向を模索するとすれば、スポーツ振興の基本計画にあるように、中学区をベースとした考え方も必要となるのではないのでしょうか。

宍戸氏 学校体育としての大会がある時に、社会体育でやっている我々の子供達がその大会に行ってしまうと、学校の事情によっては社会体育の方に出られない子が出てきてしまうこともありますので、現場の校長先生が学校でやる体育の授業か社会体育かを決定すれば良いのではとも思います。

私どものチームは五つの学校から来ていて、90名程で構成されていますが、子供同士の友達関係から引越してもこちらに来たいという場合は、相手先の指導者と話して登録するなど、できるだけ地域社会で行なうように考えています。

スポーツ少年団は地域の大人が面倒を見るのが原則ですからその主旨に沿ってやっているわけです。また、現場の先生で熱心な人は毎日練習をしますので、事故とか怪我がひとつの問題でもあります。

子供達の中にはミニの他にサッカー野球など3種目もやっている子もいまして、大会時にも天気が良いと野球に行ってしまう、軸になるプレイヤーがいなくなるような場合もあります。色々な運動をすることも良いし、様々な仲間ができるので、このような方向も大事にしています。

小学校の試合で先生が勝ち負けを優先しますと試合に出られない子供が多いのですが、ミニでは社会体育ですので全員出場させます。

渡辺(恵)氏 ミニバスとサッカーは学校単位で大会があり、

サッカーもバスケットも、動きを良く知っている子が動きを知らない子とプレイをすると怪我をし易い場合があります。特にバスケットの場合、バスケットシューズを履かずに体育館履きで、動きの良く判らない子とバスケットをやるのは危険で、筋を痛めたりすることが多いのです。体育の授業ではバスケットシューズを一人が履くと私も私もということになるので、履かせないようですが、これは必ず足首や膝などの痛みを訴えてきますので困っています。



また、小学校も地区に分けて6校か7校ぐらいが一つの学校に集まり、学校の代表チームが試合を行ないますので、学校対抗と地域対抗と2面ある訳です。

バスケット、サッカー、水泳と年間を通じて大会がバラついており、運動能力の高い子はその全部に参加しますので、その前の1ヶ月は学校全体がその練習に集中します。そのためにこちらの練習がおろそかになりますが、それは気にしないで、その結果どこか身体を痛めてくる場合があるのです。

宍戸氏 そのようなことは、私達の市でも同様に問題になっています。

渡辺(恵)氏 平日の問題ですが、子供も高学年になりますと5～6時間授業がありますので、家に帰るのが早くて3時、遅くて4時から4時半にもなり、それからまたもう1回学校に戻って練習をすることになると、もう夕飯の時間になってしまいます。

母集団も面倒を見るのが大変だし、コーチも時間的に面倒を見られません。そうすると、平日に面倒を見られる方は、職業的に限られた方かあるいはその学校の先生ということになります。このような学校は比較的強く、毎年いいところまで行っています。

県大会に行けるようなチームは、私どもの市の中では学校の先生が指導しているところが多いです。

宋戸氏 私どもの市では、熱心な先生が指導しているチームで学校単位で市に登録しているところが20数校あります。その学校の子供達が日曜日になるとスポーツ少年団に来るわけです。結局私どもとしては、日曜日だけですので子供の心理状態もわからないことが多いのです。

校長先生が熱心で、よしやってやろうというような学校は保護者も学校現場の先生方も全員一丸となっているから強いのです。ただし、2002年以降どのようなことになるのかが大きな問題です。従来の経緯としては、ミニバスケット連盟の指導書を行政に持ち込み、文部省がカリキュラムを作って5、6年生の教科にとり入れたということで、歴史的にはミニバスケット連盟が基本にあって学校体育が遅れているのです。

渡辺(誠)氏 学校の先生がどのような練習をしているのかわからないのですが、子供達を見ているとあまり意味のない練習をしているように感じる場合があります。家庭婦人でバスケットをやっている方のお子さんがミニバスに参加している例は多くてやはり非常に熱心です。

原氏 私どもの場合、親はあまり熱心ではないのですが、コーチを手伝ってくれる親も2人います。

普及部会 学校体育、社会体育と色々議論されていますが、強化を目的にするのではなく、あくまでも児童スポーツの育成、普及という面から考えると、校長先生や指導者も熱心で、学校全体としてバスケットを指導していくことは大変結構だと思います。



一方で、校長先生があまり熱心ではないとか、また指導者も、学年ではやるけれども学校全体としてはやる意欲がないというような事情ではみだしてしまった子供達が、社会体育のチームで指導者のいるところに行ってバスケットをやるような形もよいのではないかと思います。

週休2日制になると土日の余暇の活用については徐々に社会体育に向いていくのではと思われますが、週休2日制になっても学校自体が熱心に学校体育としてやっていくのであればそれも良いのではないのでしょうか。

要は、やりたくてもできない子供達が、どこかで指導を受けて好きなバスケットをやっていける適当な受け皿を用意することが大切と考えます。

司会 指導者として日頃お考えになっていることをお聞かせください。

渡辺(誠)氏 強いチームではないので、明るく楽しくバスケットを楽しませることができればいいかと、そしてその結果が勝利に結びつけばこんなに楽しいことはないと思っています。子供達は日曜日体育館に遊びに集まって来るわけなので、練習を重ねると時間が経つにしたがって、特に下級生ほど集中力がなくなりますがこれに対し繰り返し注意するのも結構疲れます。

最近嬉しく感じることは、ミニバスを卒業した中学生がよく遊びに来ることです。この子達は中学でバスケットをやっている子もいれば他のスポーツをやっている子もあり、とにかく中学で何かスポーツを続けていてくれるのは嬉しいことです。

原氏 私がミニバスケットの指導を始めたきっかけは、他のスポーツの仲間に誘われたことです。自分のバスケットは大学時代膝を壊して終わってしまいましたが、高校時代にバスケットを通じての良い思い出があり、子供達にもそうした良い経

験をさせてあげたいという気持ちからなのです。試合に負けるとやはり悔しいし弱いチームとしては10年間もストレスのたまりっぱなしです。その中でも、自分がそうであったように中学でダメでも高校で良くなることもあるでしょうし、仮に小学校でダメでも続けることによって良い経験をする事ができればと願っていますので、高校生になって活躍していることを聞くと嬉しいです。

ただ、うちのチームは、共働きの多いという地域性によるのでしょうか、日曜ぐらいゆっくりしたいという親が多くて練習を見に来ないことが残念です。

渡辺(恵)氏 お母さん達が練習毎にお当番を決めていまして、必ず2人くらい子供達の怪我などの対応をしてくれています。指導者は練習の方をみなくてはならないので必ず母集団に参加してもらっていますが、逆にそのようなことが大変だろうと考えてスポーツ少年団に入れない親がいるのも事実です。家族で参加できるように方向付けていますが、月に1〜2回出てきて手伝うわけですから、親も大変だと思います。



コーチとしては強くする目的もありますが、一寸した礼儀作法も大事にし、また、プレイに関しては基本を徹底させることを主眼としています。

地域性でしょうが、地元を卒業した親が残っている場合が多いので、やりやすい面もあります。卒業した子供達が中学、高校、大学とバスケットを続けているのを見ると本当に嬉しいです。

宍戸氏 ボランティアの理念のもとに指導者の育成を図っていますが、40歳代からが多く、経験者も未経験者もいるなか、既に11人に認定書を出しています。何よりも“子供を褒めて欲しい、子供の目線で指導して欲しい”ということと、“往復の交通事故に十分注意して欲しい”ということの2点を徹底させています。

司 会 練習の成果について何かあればご発言をお願いします。

渡辺(恵)氏 女子の場合は中学に進んでいつも市の上位にあり、県大会に出場するようなチームになりました。運動会などを見ているとバスケットをやっている子は確実に脚が早くなっていますし、中学へ行っても女子のバスケットの子が長距離ではいつも学校で一番です。

宍戸氏 指導していて徹底してやらなくてはいけないと思っていることは生活の切り替えということで、これができない子が多いのです。「バスケットは目まぐるしく攻防が変わるスポーツだからこの切り替えをしっかりとしないと駄目なのだよ」と練習の都度言っていますし、家庭でも保護者にその点を注意して欲しいとお願いしています。

子供達と保護者と年2回交流を行なっていますが、お父さんお母さん達も楽しくなってきたようです。

渡辺(誠)氏 子供達は試合をやりますが、基本的な手足の動かし方をしっかり身につけ、中学へ行っても納得できればそれも素晴らしいことだと考えます。もともとスポーツに関心のある子が集まっているわけですから、卒業する時子供達には、生活の中で身体を動かす週間を持続してくれるようにと話します。中学へ行っても何かスポーツをやっている子が多いです。

司 会 練習はゲーム中心ですか、基本練習を主体にしていますか。

宍戸氏 低学年の場合はボールに慣れ、遊びを通じてバスケットの楽しさを知ってもらうよう努力しています。上級生になると試合形式の練習を多く行なうようにしていますが、ミニを教える難しさと同時に、バスケットの原点はまさにミニだなと感じています。

司 会 指導内容と指導方法を分けていますか。また指導するときの表現（言葉遣い）も非常に大切です。個人技、集団技というように分けて練習しているのですか。

渡辺(恵)氏 1回毎の練習の中でもそうですが、年間を通じて特にスタートの時期は基本がほとんどです。例えば、同じ3対3でも、一つ一つテーマを決めて指導し、ある程度それをクリアした場合はそれにプラスして増やしていきます。学年差はありますが徐々に練れていき、底上げもできてきます。

経験を積むとともに指導者協議会の講習もあり、全員で市のレベルを上げるように勉強しています。低学年はバラバラですが、高学年になるにしたがってだんだん指導のレベルを上げていきます。

言葉遣いを注意しながら、子供の目線に合わせた表現を工夫して指導していますが、バスケットボールプレイヤーを育てるというより、人間として育てることを大切にしていきたいと考えています。

宍戸氏 ただ技術論だけで勝つことを先行させ、下手な子を切り捨てるのは簡単ですが、そういう訳にはいかず、むしろ一番軸になるのは下手な子なのですから、うまい子をどうするというより下手な子をどうやって指導してバランス良くチームに溶けこませチーム全体を勝利に導くか、この辺が難しいのです。

司 会 ミニの指導者として、広い立場からの将来への展望をお話いただけますか。

また、ミニのプレイヤーが中学、高校、大学と進むにしたがって漸減している現状、少子化への対応、週休2日制などについてどのようにお考えですか。更に日本協会や振興会についても何かご希望があれば併せてお聞かせ下さい。

渡辺(恵)氏 毎日の練習に自分がどのように都合をつけて出るかに追われている始末です。

中学、高校に進学してバスケットを辞めて欲しくないなと思っていますが、個性のある指導者に教わった後はその上のレベルにいった時に辞める傾向もあります。あまりにも熱心にやりすぎる結果でしょうか。このような燃え尽き症候群みたいな問題は、どう考えたら良いのでしょうか。少子化は避けられない問題ですが、地域性もあると思います。

宍戸氏 日本リーグで活躍したミニ出身の選手が地元に戻ってきて一緒に指導してもらっています。将来の夢としては、地元でミニを経験した選手が地元に戻って次ぎの世代の子供達を指導できたらといった期待を持っています。

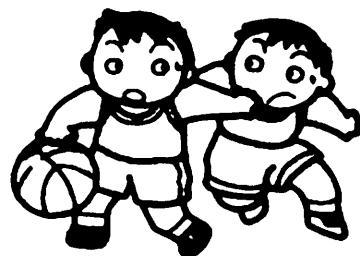
振興会の案内をいただいた時に思ったことは、振興会のベテランの指導経験者に、関東地区などで行なわれる講習会に来ていただいて勉強ができればいいなということです。指導者養成のための機会が欲しいと思っていますので、我々が機会をセットした時に指導に来ていただければと思います。

過去に7回ほど国際交流も行なっており、子供達は上級の学校へ行っても比較的継続している子が多いです。少子化については統廃合の問題が起きており、一つのクラブチームでは対外試合に出場できなくなることも目前です。我々はこの



問題について協議してクラブを合体化させることで調整することを考えています。
渡辺(誠)氏 ミニのプレイヤーが継続してバスケットをやっていく時に、他のコーチに指導を受けた場合に挫折することのないよう、指導方法の面で考えているつもりです。

原 氏 プレイを続けていく上で、何がその子の得意技となるか判りませんから、色々なことをやらせてあげたいという意味で個人技を中心に考えています。中学、高校へ行って続けるには何かのきっかけも必要だろうと、幅広くプレイに接する機会を与えています。



少子化については、1校だけでは無理なので統合を考えなくてはなりませんし、また、指導者も複数の形が望まれます。

一方で、プレイヤーについても何故1チーム10人いなくてはいけないのかという疑問も持ちます。

地区の大会の場合は例外的に様々な対応をしています。

司 会 長時間にわたりご協力有難うございました。

◇おわりに

ミニバスケットボールは、現実の問題として今後更に社会体育的方向での重要性を増していくであろう。その理由の一つは少子化により学校単位のスポーツ活動がだんだん困難になってきたことであり、二つには2002年から実施される週休完全2日制にともなう余暇の増大である。そのような問題をも含め、振興会普及部会としても今回ミニバスケットボールの世界につき色々勉強させていただいたが、その更なる発展を願う気持ちから以下に「所感」をまとめておきたい。振興会会員の皆様も是非地域のミニバスケットボールの活動に関心をお持ちいただき、積極的にご参加あるいはご支援下さるよう期待する。

1. 体制づくり

活動の核となる組織は日本ミニバスケットボール連盟であり、今後とも学校体育、スポーツ少年団をも視野に入れながら行政の協力を得ていく方向で、益々積極的な指導力を発揮されるよう期待したいが、社会環境の実態は各地域により大きく異なっているし、また、スポーツ振興法の基本計画では、各都道府県に広域スポーツセンターを作り、各市町村に総合型スポーツクラブを設けていこうとしている。このような動きの中で、各地域の関係者は行政、学校関係者と綿密に連絡を取り、地域のスポーツ拡充普及施策と連動した体制作りを目指していくことが重要となろう。

2. 指導者の育成

ミニバスケットボールは将来ともバスケットボールを愛好し継続していけるように小学生達を育てていくことが一番の目標になる。

最初にバスケットボールに興味を抱くのは小学校2～3年生の頃であるが、それらの小学生達にはまずバスケットボールがどんなに楽しいものであるかを教えていかねばならない。そして勝敗にこだわるよりは、できるだけ多くのプレイヤーが試合に出られるように

配慮するとともに、ミニバス活動への参加を通じて期待される精神的果実をも大切に考えていく必要がある。

また一方で、ミニバスケットボールの選手たちの中から将来日本を代表する選手が出てくる可能性も秘められているので、より正しい基本技やマナーを教えていくことも併行して考慮されなければなるまい。

このように考えると、結局は指導者のバスケットボールに対する理解度と、人間的資質の如何が重要な鍵となる。ミニバスケットボール連盟では16,000名の指導者が活動していると言われるが、まだ質量ともに不十分であり、引き続きその育成策については積極的な工夫を要しよう。

振興会としては指導者育成の一助までに「ミニバスケットボール指導者の葉、——初、中級者の方々へ——」を作成して大方の好評を得た経緯もあり、また、会員の中には経験者もいるので、今後とも何らかの形でできる限り協力していきたいと思う。

3. 将来の展望

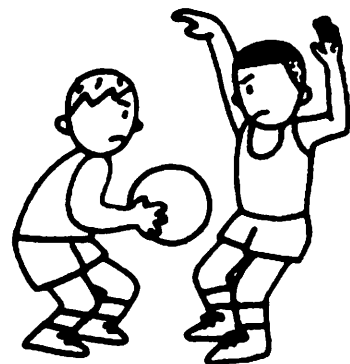
① 大会の拡大

ミニバスケットボールの場合は既に全国大会が実施され多大な成果を得ているが、グローバル化の進展と共に、高学年については世界の子供と手をつなぐ国際大会、最終的には世界大会の開催をも考える時期にきているのではなかろうか。低学年についてはあまり広範囲な大会は無理なので、まず地域における大会で低学年を含めて開催することを考えてみては如何であろうか。

② 一貫した指導体制の確立

現在小学校では、ミニバスケットボール連盟に所属していない者を含めると30,000人近くの子供がバスケットボールに親しんでいると言われているが、中学校・高校と進むとその人数は漸減する。そうした意味からは、特に中学校では現在小学校と同じ問題を抱えている（少子化、完全週休2日）わけなので、小・中それぞれ別に対策を講じるのではなく、社会体育としてまず小・中一貫した体制作りを推進する必要もあらうかと思われる。各地域の行政、学校関係者とともに垣根を取り払って話し合う土壌作りから始めていかななくてはなるまい。

以 上



唯一の公式試合球



国際バスケットボール連盟
主催国際大会



アジアバスケットボール連盟
主催大会

JBL

バスケットボール
日本リーグ機構主催大会



バスケットボール女子
日本リーグ機構主催大会



MTB7WW JB2020

国際バスケットボール連盟公認球
日本バスケットボール協会検定球
○貼り○天然皮革○7号球○ワイドチャネル



闘う者に、ベスト・エキップメント。

molten

株式会社 モルテン

東京本社 〒130-0003 東京都墨田区横川5丁目5-7
大阪・名古屋・広島・福岡・四国・仙台・札幌・リノUSA・デュッセルドルフG



みんなが

生茶を

飲んでる。

生茶のおいしさが全国に広がっています。コクとすっきりをあわせもった、生茶葉のうまみのおかげでしょうか。あの人が、そしてみんなが、今日も生茶を飲んでいる。



キリン「生茶」

生茶葉抽出物使用・加熱処理
のんだあとはリサイクル

